

「遊ぶ・学ぶ・にぎわう」複合交流拠点について

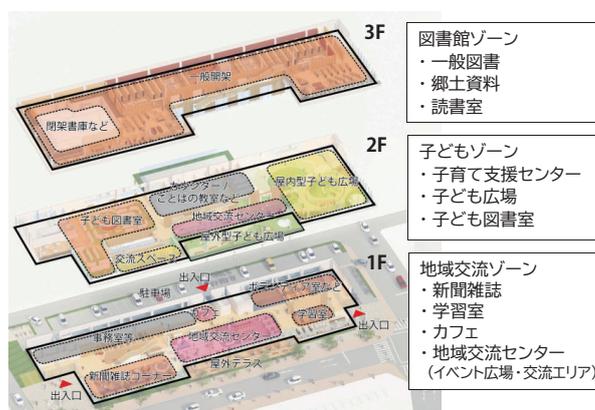
シリーズ① 概要編



現在、令和7年春の開館を目指して設計を行っている「遊ぶ・学ぶ・にぎわう」複合交流拠点についてシリーズで紹介します。この施設は、子育て支援センターや屋内外の子ども広場、図書館、地域交流センターを備えた複合施設で、第1回目は、その概要について紹介します。

Q どんな施設ですか？

A 1階は地域交流ゾーン、2階は子どもゾーン、3階は図書館ゾーンの3階建てです。全ての階が図書館として利用でき、施設内のどこでも本を手にとって読むことができます。現在の図書館よりも閲覧席や学習席を増やす計画です。1階のカフェでくつろぎながら読書を楽しむこともできます。



Q どうして複合施設にするのですか？



施設内イメージ

A 子どもから高齢者まで、幅広い世代の方々が図書館を利用し、また、子どもたちの遊びと学び、子育て相談が同時にできる施設を目指しています。例えば、真岡について学ぶ講座に参加した際に、関連する本を借りたり、子どもと一緒に遊んだ後に、絵本を借りたり、子育ての相談もできる場所になります。

Q どうして今つくるのですか？

A 図書館や子育て支援センターは、まもなく築40年を迎えます。これまで老朽化による雨漏りや、空調機器の故障が相次いでおり、今後も利用していくには、それぞれ抜本的な修理が必要となります。そのため、今なら受けられる国の支援を活用して、市の実質的な負担を約17億円に抑え、市民が集い、学び、交流する新たな施設として、建設を進めています。

設計建設費の内訳

設計建設費 38億820万円		
市の実質負担 約17億円	①国庫補助金	②地方交付税
新たな支出 約7億円	③積立金 約10億円	国の支援 約21億円

- ①公共施設の統廃合を進める自治体を対象とした補助金
- ②市町合併後20年までが対象となる国からの財源
- ③公共施設の整備のためにこれまで積み立ててきた基金